



女性の主体性を尊重し、安全で質の高い助産ケアができる専門職を育成します。
また、人との出会いとふれあいを大切にしたい教育を目指します。

アドミッションポリシー(入学者受入方針)

和歌山県立医科大学助産学専攻科では大学の教育理念に基づき次のような人を求めています。

- 科学的探究心と豊かな人間性・高邁な倫理観を希求する人
- 助産学を修得するための幅広い能力を有する人
- コミュニケーション能力を備えた協調性の高い人
- 地域母子保健に関心があり、国際的視野を希求する人
- 生涯にわたって自立と自律をめざす人

カリキュラムポリシー(教育課程方針)

教育課程は「基礎領域」「実践領域」「関連領域」の3領域で構成しています。

- 基礎領域では、助産師の役割や助産業務の遂行に必要な生命倫理、子どもの健やかな成長発達支援のための理論や支援方法に基づいた教育
- 実践領域では、助産診断・技術学を中心に講義や演習によって妊産褥婦・新生児の健康状態を診断しケアを計画し実践できる教育、また助産師による地域母子支援及び関係機関との連携する力を獲得できる教育
- 関連領域では、助産学研究や助産学に対する課題解決力や医療職として生涯にわたって自己研鑽力を身につける教育、及び母子保健を国際的な視点でとらえ、幅広く活動できる人材を育成する教育

ディプロマポリシー(修了証書授与方針)

和歌山県立医科大学助産学専攻科は所定の単位を修得し、以下の能力を獲得した者に修了証書を授与します。

- 助産師として高い倫理観を基盤として、対象を理解し尊重することができる
- 妊娠・分娩・産褥経過および新生児期において診断できる能力を備え、正常からの逸脱を判断し異常を予測したケアを提供することができる
- 女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対して、支援するための基礎的能力として知識・技術・コミュニケーション力を有している
- 国際的視野を持ち、保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して地域社会に貢献することができる
- 知的好奇心を持ち生涯を通じて自己研鑽することができる

修業年限 1年

入学定員 10名

実習施設

【病院】

- 和歌山ろうさい病院
- ひだか病院
- 紀南病院
- 和歌山県立医科大学附属病院

【助産院】

- 岡本助産院
- ちひろ助産院
- むとう助産院

授業科目一覧

授 業 科 目		単位数		修了要件
		必修	選択	
基礎領域	助産学概論	1		必修 34単位 選択 1単位 以上
	妊娠期の異常	1		
	分娩・産褥・新生児期の異常	1		
	生殖医療と生命倫理	1		
	親子関係発達論	1		
	母子の栄養学	1		
実践領域	助産診断・技術学Ⅰ(妊婦)	2		
	助産診断・技術学Ⅱ(産婦)	2		
	助産診断・技術学Ⅲ(母子)	2		
	助産診断・技術学Ⅳ(思春期・更年期・老年期)	1		
	子育て支援論	1		
	健康科学教育論	1		
	助産管理	2		
	成育医療	1		
	助産学実習	12		
	助産管理実習	1		
	産科救急・新生児蘇生法	1		
	助産学研究	1		
関連領域	周産期のメンタルヘルス	1		
	アクティブバースへのケア		1	
	助産師と国際活動		1	
合 計		34	2	35単位以上





主な年間スケジュール

4月 入学式、オリエンテーション
前期講義、演習

5月 講義、演習

6月 地域母子保健

7月 技術テスト、前期試験
オープンキャンパス

8月 夏期休業（実習準備）

9月 助産学実習（9月～11月末）
・分娩介助
・継続事例への助産ケア及び1ヵ月健診
・保健指導など

10月

11月

12月 助産管理実習
実習報告会
冬期休業

1月 助産学研究発表会（事例）
後期講義
後期試験

2月 国家試験受験
入職前演習（教科外プログラム）

3月 修了式



会陰縫合術演習



新生児蘇生法(Aコース)



マザークラス：児頭回旋説明



マザークラス発表後



助産学専攻科修了生からのメッセージ

助産師 中西百萌さん
(令和6年度修了生)

和歌山県立医科大学附属病院 勤務1年目

助産学専攻科の1年間を振り返ると、今までで1番密度の濃い、充実した日々だったと感じます。講義内容が専門的で理解が追いつかないことや課題の多さに苦戦することが多く、想像以上に大変でした。それでも、仲間と切磋琢磨して、一つひとつ乗り越えることができましたと思います。

演習では、技術を習得するために繰り返し練習を行いました。4名の先生方が個別性に合った指導をしてくださるため、課題を明確にしながら取り組むことができました。9月～12月上旬には助産学実習・助産管理実習があります。主体的・積極的な学びが必要であり、自分の知識や技術が追いつかず、挫折することもありました。先生方や指導者さんからご助言をいただき、できることが少しでも増えたときはとても嬉しかったです。実習で関わらせていただいた方からの「あなたがいてくれて良かった」「ありがとう」という言葉や産まれてきた赤ちゃんが元気に成長していく姿を見て、より助産師になりたいと思うようになりました。この学びや経験を活かし、出会った仲間を大切に、これからも努力していきたいと思っています。

助産師を目指す皆様の入学を応援しています。



助産師 沖奈央さん
(平成30年度修了生)

和歌山県立医科大学附属病院 勤務7年目



和歌山県立医科大学附属病院で助産師として勤務しています。助産学専攻科で過ごした1年を振り返ると、私の人生の中で一番濃い時間だったと思います。助産師という同じ夢を持った仲間と助け合い、日々の課題や演習を乗り越えました。熱心に指導してくださる先生方に支えられ毎日を過ごしました。3か月間の助産学実習は、受け持ちの妊産褥婦さんや臨床指導者の方から多くのことを学ばせていただきました。この学びは、私が今助産師として働く上で基礎になっています。

和歌山県立医科大学附属病院は和歌山県で唯一の総合周産期医療センターです。母体胎児集中治療室 (MFICU) や新生児集中治療室 (NICU) を併設し、ハイリスク妊産婦を受け入れています。当院で勤務する助産師は瞬時に適切な助産診断を行う能力が求められます。緊張感のある場面もありますが、無事に赤ちゃんが生まれ、担当したお母様方から感謝の言葉をいただくとき、助産師としてのやりがいを感じます。

貴重な出産の場に立ち合わせていただくことができる助産師は、とても魅力のある職業だと思います。ぜひ素敵な助産師になれるよう頑張ってください。応援しています。

助産学専攻科修了後の主な就職先

- 和歌山県立医科大学附属病院
- 紀南病院
- ひだか病院
- 和歌山ろうさい病院
- 大阪大学医学部附属病院
- 大阪公立大学医学部附属病院
- 大阪市立総合医療センター
- 大阪母子医療センター
- 大阪ろうさい病院
- 淀川キリスト教病院
- 愛染橋病院
- 京都大学医学部附属病院
- 加古川中央市民病院
- 岡山医療センター